

## 過疎高齢化と震災による地域の人口減少と地域住民の活力の低下

指導教員	金沢星稜大学	教授	神崎淳子			
参加学生	4年	奥森みいゆ	川原田大喜	釣谷陽春	利水輝	伏田朱里
		宮下瑞希	彌久保大河	山口智也	米田貴広	加藤蓮
		松永竜威				
	3年	岩井理紗	大野愛美花	大橋優貴	杉浦優	村上大誠
		田内杏奈	中野光	東山絢音	漆崎翼	白井希愛
		武田幸誠	戸田陵介	長田真依	東みらい	山下百花
		河村陸				
	2年	青地慶樹	石田奈士	上田修生	大石柊羽	大田晴也
		川上結菜	川田結栞	木戸秀	菅波太晟	中川百華
		端大地	坂東美祐	前田彩乃	松島周吾	宮下琉唯
		横山泰成	上田泰気	高野光流	村井悠真	森川初菜
	卒業生	山下真悠				
		泉沙也加	川島大河	水元真夏		

本活動にご協力いただきました、  
宮地地区地域住民及びボランティアの皆様にご心より感謝申し上げます。

# キリコ祭りプロジェクト

金沢星稜大学経済学部 2025年度神崎ゼミナール

2年生21名、3年生16名、4年生11名、卒業生3名

★プロジェクトチーム★

岩井理紗・大野愛美花・大橋優貴・杉浦優・村上大誠



## 概要

能登町宮地地区では、高齢化や人口減少に加え、震災の影響により、キリコ祭りの担い手不足や知識・技術の継承が深刻な課題となっている。本活動は、地域の伝統文化を次世代へ継承するとともに、住民が祭りに主体的に関われる機会を創出し、地域内外の交流を通じて持続的な地域活性化に寄与することを目的として実施した。9月19・20日の2日間、地域住民の指導のもとキリコ運行の準備から当日の運行までに参加し、学生は地域と協働した祭り運営に携わった。また、学生主体で縁日・屋台を企画・運営し、射的や輪投げ、特産品を用いた飲食を無償で提供した。これにより、復興への思いを共有する世代を超えた交流が生まれ、祭りを核とした地域コミュニティの再生に貢献する取り組みとなった。



## 目的

高齢化や人口減少、震災の影響により、能登町宮地地区のキリコ祭りは担い手不足と伝統継承の危機に直面している。本活動は、祭り文化を次世代へ受け継ぎ、住民が参加・交流できる機会を創出することで、地域コミュニティの再生と持続的な地域活性化を目指す。

## 結果

本活動により、担い手不足や震災の影響により存続が危ぶまれていた能登町宮地地区のキリコ祭りを、今年も無事に実施することができ、地域の伝統行事の継続に貢献した。学生は地域住民から直接指導を受け、キリコの準備から当日の運行までを担うことで、地域と協働した祭り運営体制を構築し、恒常的な担い手にはなり得ないものの、祭り継続に向けた「つなぎ役」として重要な役割を果たした。さらに、秋祭り前の時間帯を活用して屋台・縁日を実施したことで、既存行事の流れを尊重しつつ新たな交流の場を創出した。これにより、世代や立場を超えた対話が生まれ、地域コミュニティの再活性化に寄与する成果を得た。

## 活動報告

本活動は9月19・20日の2日間にわたり実施した。1日目は地域住民の指導のもとキリコ運行の準備を行い、夜には学生も参加してキリコを運行した。あわせて、学生主体で縁日・屋台の設営を行い、地域住民やボランティアとの交流を深めた。

2日目は縁日・屋台を開催し、射的や輪投げ、能登町特産のブルーベリーを使ったかき氷や宮地産米のおにぎりを提供した。これらは復興と地域活性化への願いを込め、無償で実施した。

9/19

12:00 宮地地区到着

13:00～16:00 キリコ祭り、屋台、縁日準備

17:00 キリコ運行練習

18:00～20:30 夕食、休憩

21:00～24:00 キリコ運行、神事

24:00～就寝



9/20

9:00 起床

9:30～10:00 キリコ片付け、屋台、縁日準備

10:00～13:00 屋台、縁日開始

14:00 秋祭り神事開始

14:30 宮地地区出発



## 考察

本活動を通して、外部と地域住民との関わりを継続的に創出する仕組みづくりや、キリコ運行において地域住民が自発的に参加できる体制の構築が今後の課題であると考えられる。その実現に向けては、本学内にとどまらず外部へ向けた情報発信を積極的に行うことが求められる。具体的には、宮地のお祭りに関する情報をSNS等で発信することや地域新聞、大学公式ホームページを通じて活動内容を発信することが有効である。これにより、活動の認知度向上や若年層への周知が進み、将来的な担い手不足の緩和につながることを期待される。

我々は祭りという限られた機会において地域活動を支援し、外部と地域をつなぐ役割を担うことで持続可能な形で地域行事に関与していくことが求められる。総括として、地域住民が主体的にキリコ運行を行える仕組みを構築し、地域全体で祭りを支えていく体制づくりを進めていく必要があると考えられる。



## 1. 活動の要約

能登町宮地地区では高齢化や人口減少、震災の影響によりキリコ祭りの担い手不足や知識・技術の継承が困難となり、祭りの継続が危ぶまれている。本活動は、伝統文化の次世代への継承、住民の参加機会の創出と交流促進、地域の持続的活性化を目的として実施した。9月19・20日の2日間、住民の指導のもとキリコ運行および準備を行い、学生主体で縁日・屋台を企画運営した。射的や輪投げ、特産品を用いた飲食提供を無償で実施し地域交流と復興への願いを形にした。

## 2. 活動の目的

能登町宮地地区において、高齢化と人口減少が進む中、地域の伝統行事であるキリコ祭りに関わる担い手が減少している。その影響で、祭りに必要な知識や技術、準備の手順が十分に継承されず長年受け継がれてきた祭り文化の継続が危ぶまれている。加えて、震災の影響による地域コミュニティの弱体化も相まって、住民の精神的支柱であった祭りを恒常的に実施することが、極めて困難な状況となっている。

以上の課題を踏まえ本活動は、地域の伝統文化を次世代へ継承すること、住民が祭りに参画できる機会を創出し地域内の交流を促進すること、さらに宮地地区の持続的な地域活性化に寄与することを目的として実施するものである。

## 3. 活動の内容

本活動は、9月19日および20日の2日間にわたり実施した。

### 【1日目（9月19日）】

午後より、地域住民の方にご指導いただきながらキリコ運行に向けた準備作業を行うとともに、学生が主体となり縁日と屋台の設営を実施した。夕食は地域住民の方々が用意してくださり、地域の方、ボランティア参加者とともに会食し交流を深めた。その後、21時よりキリコの運行を開始し24時まで実施した。運行終了後はキリコの片付けを行い、1日目を終了した。

### 【2日目（9月20日）】

朝より、縁日と屋台の準備を行い10時半から13時まで開催した。縁日では射的と輪投げを実施し、屋台では能登町特産のブルーベリーシロップを用いたかき氷や宮地産の米を使用したおにぎり等、複数の飲食物を提供した。なお、縁日・屋台は能登復興と宮地の活性化を願い無償で実施した。終了後、片付けを行い、活動を終了した。

## 4. 活動の成果

担い手不足により存続が危ぶまれていたキリコ祭りを当年も実施することができ、地域の伝統行事が途切れることを防ぐことができた。学生が地域住民からの直接の指導を受けてキリコの準備および当日の運行を担ったことで、祭りを地域住民と共に運営する体制を構築することができた。大学生は恒常的な担い手とはなり得ないものの、祭りの継続に向けた「つなぎ役」として機能し、地域行事の連続性を確保する役割を果たした。

また、外部の若い世代として祭りの運営に関わる中で、学生自身が地域の方々と共に祭りを将来に残していくためにはどのような関わり方が望ましいのかを考えるようになった点も、本活動を通して得られた重要な成果である。

さらに、キリコ祭り翌日に開催される秋祭り前の時間帯を活用して屋台・縁日を実施したことで、既存の行事の流れを尊重しながら新たな交流の場を創出することができた。射的や輪投げ、地元の特産品を用いた飲食の提供を通じて、地域住民同士および学生と地域住民との間に自然な会話や交流が生まれ、世代や立場を越えたつながりが形成された。実施は1日限りであったが、会場には多くの人

が集まり、にぎわいと活気のある空間が生まれたこと自体が、本活動が地域と繋がり、交流を生み出す取り組みとして機能したことを示した。

以上のことから、本活動は単なる祭りの補助にとどまらず、地域の伝統行事を支えるとともに、人と人とを結びつける場を創出し、地域コミュニティの再活性化に寄与した点において意義ある成果を挙げたといえる。

## 5. 今後の活動計画

本活動を通して、外部と地域住民との関わりを継続的に創出する仕組みづくりや、キリコ運行において地域住民が主体的に参加できる体制の構築が今後の課題であると考えられる。その実現に向けては、本学内にとどまらず外部へ向けた情報発信を積極的に行うことが求められる。具体的には、宮地やお祭りに関する情報を定期的に SNS 等や地域新聞を通じて発信することが有効である。これにより、活動の認知度向上や若年層への周知が進み、将来的な担い手不足の緩和につながることを期待される。

また、今後は地域住民を対象としたアンケート調査を実施し、地域全体の意見や要望を把握することも重要である。地域住民の声を活動に反映させることで、地域との一体感が生まれ、住民による主体的かつ継続的な参加を促進する効果が見込まれる。学生の継続的な関与という観点では、複数学年の学生が参加していた点が活動の継続性を高める要素となっており、活動の意義や目的を学年間で共有することが次年度以降の参加意欲や主体性の向上につながると考えられる。

さらに、学生以外の団体が縁日や屋台に参加したことで地域内外の交流が生まれた点も成果の一つである。その一方で、夜間に実施されるキリコ運行については、深夜に及ぶ時間帯や地理的条件から現段階では外部参加者が継続的に関与することには制約がある。そのため今は、外部からの参加に依存せず、地域住民が主体となって運行に関わる体制を整備していくことが重要である。地域には高齢の方が多いという特性もあるが、役割分担の明確化や安全面に配慮することで、無理のない形での参加は可能である。そして将来的には、地域内外の繋がりを深めキリコの担い手不足を解消するために、宮地地区における民宿の存在を活用し宿泊プランの一環として祭りへの参加体験を組み込むことで交流人口の増加を図るとともに、外部からの担い手確保に繋げることも期待できると考えられる。

以上のことから、我々は祭りという限られた機会において地域活動を支援し、外部と地域をつなぐ役割を担うことで持続可能な形で地域行事に関与していくことが求められる。また、地域住民が主体的にキリコ運行を行える仕組みを構築し、地域全体で祭りを支えていく体制づくりを進めていく必要がある。

## 6. 活動に対する地域からの評価

宮地地区の春蘭の里代表である多田さんは、「今年も祭りを開催できてよかった。2日目の縁日と屋台は1日目の活動と合わせて、住民と学生の交流を深められた。」と本活動を評価した。

一方で課題点もあり、毎年星稜大生が多く参加しているのに対して、宮地の住民の参加率の低さを取り上げた。キリコ祭りの開始時間が夜遅いことや、重いキリコを外部の人と担ぐことが住民の精神や身体的に負担になっており、それが参加のハードルを上げることに繋がっているのではないかと話した。また2日目の縁日・屋台は、地域の住民と学生の交流をかわすことができたが、一部の学生や住民からは話しかけるタイミングが掴めなかったり、緊張して十分なコミュニケーションを取れなかったと話した。座談会などのしっかりとした対話ができる場と時間を設けることで、より深く地域と学生が関わられるのではないかと考察している。